

WHO Report

ウォーキング・ホリデー・オギクボ

2022年12月号

NO. 254

東京西ワイスメンズクラブ・東京YMCA杉並センター

野川下り最終回 母なる多摩川との再会

4月から始めた野川下りシリーズは、
今回が最終回です。多摩川の南下によっ
て生まれた野川は、母なる多摩川との
再会です。それは同時に西国分寺から
寄り添ってきた國分寺崖線との別れでも
あります。崖線は、用賀、上野毛、田園調布まで続きます。



今回のコースは、農村の面影を残す地域から、江戸時代の江戸市中
の町民に景勝を愛される人気の行楽地、明治時代の華族、華族や政財
界の別荘、別邸地を経て、今は、“ニコタマ”と親しまれ、人気のス
ポットになっている二子玉川まで歩きましょう。

247回WHOウォーキングのご案内

期 日：2022年12月17日(第3土曜日)

コース：小田急線成城学園前駅北口<バス>ー
永安寺前ー永安寺ー仙川・丸子川分岐点ー
丸子川親水公園ー仙川・野川合流点ー鎌田
前耕地公園ー岡本民家園ー岡本湧水ー静
嘉堂緑地自然林(水道トンネル)ー旧小坂
家家屋・崖線緑地ー静嘉堂文庫・美術館入
り口付近ー玉電砦線軌道跡ー野川吉沢橋
ー野川・多摩川合流点・兵庫島付近ー東急
田園都市線・大井町線・二子玉川駅

集合・出発：小田急線成城学園前駅南口交番前
10:00(トイレを済ませて)

受 付：初回の方は、必ず連絡先住所、電話番号を
書いてください。これまで書いていない方
もお願いします。

解 散：東急田園都市線二子玉川駅 14:30頃
携行品：名札、マスク、健康保険証、弁当、飲料、
雨具、お渡したパンフレット『野川マッ
プ』をシリーズ終了までご持参ください。
今回、初回参加の方にはお渡しします。

参加費：300円、交通費、施設利用代は各自負担。
初参加の方は、名札代200円。(必ず装着
してください)。

みどころ

仙川：小金井市貫井北町を水源として絶えず野川

の東側を流れてきたが、今回世田谷区鎌田で野川に合流する。全長 20.9km。合流点改修中。

野川:西国分寺の恋ヶ窪付近を発して、途中入間川、今回、仙川を合流し、二子玉川・兵庫島付近(改修工事中)で多摩川に注ぐ。全長 20.23km。

丸子川:一部は多摩川から取り水した六郷堀(次大夫堀)であったが、岡本三丁目付近で仙川の分水を受け、丸子川として、上野毛、等々力を経て大田区玉川大で丸子橋付近で多摩川に注ぐ。

岡本民家園:区内にあった茅葺き屋根の農家の古民家母屋、土蔵、^{うでぎ}椀木門などを移築復元、整備し、江戸、明治時代の農家を再現している。

静嘉堂文庫・美術館:1910(明治43)年、旧三菱財閥、岩崎家の玉川廟として建設。1924(大正13)年に文庫・美術館を建設、2代社長岩崎彌之助、4代社長小弥太によって収集された国宝、重文を含む東洋の典籍、美術品が保存、展示された。2022年に文庫、美術館は、東京丸の内の明治生命館美術館に移ったが、静嘉堂緑地は、入場することができる。

旧小坂邸と崖線緑地:信濃銀行役員小坂順造の別、1937(昭和12)年に建造。國分寺崖線にある。付近には政財界人建てた別荘が数多くあったが、現在は解体された。世田谷区に寄贈された旧小坂邸のみ往時の姿をとどめている。

多摩川との合流地点:野川の多摩川合流点は、兵庫島(東急田園都市線鉄橋)付近。

多摩川と玉川:「多摩川」は正式な河川名、「二子玉川」は地域名、「玉川」は世田谷区の町名、「二子」も対岸の川崎市高津区の町名。

二子玉川(ニコタマ):江戸時代は大山詣での江戸町民相手の渡しと茶屋があり、明治になって玉川電車が敷かれ、住民が増え崖線付近に著名人が別荘を設けた。1969年、郊外型ショッピングセンターとして玉川高島屋SCが開業、2011年に東急ライズが参入し、「ニコタマ」として、広い世代を集めている。

おしゃれな町、成城。紅葉の崖線

—11月例会報告—

11月例会は26日。午前中の空模様は、“狐の嫁入り”。参加は28人。住宅地を歩くにはちょうど良い。一人の小さな発見が共有できるから。

小田急線成城学園前駅から出発するといきなり

歓声。イチョウ並木が見事な黄金色。落葉とのバランスもよし。碁盤の目のような整然とした町並みを巡りながら、代表的な和風建築、旧猪股邸と外観はスペイン風、米国の生活様式を取り入れた昭和12年建築の旧山田邸館と庭園を見学しました。

ここから、この日一番の難所の不動坂。住宅地と野川沿岸の平坦な低地を結ぶ崖線です。距離は200mほどですが、クルマもあえぎながら上る急坂、腰ヒザに問題のある方には下りは辛いはず。万一途中で立ち往生した場合に備えて、タクシーの迎車も考えていました。幸いなことに何も起こらず下り、思わず来し方を見返りました。

山田邸の西側は崖線高低差20mの約2.9ヘクタールの崖線。樹林、溪谷、池があり、希少な動植物が生息していて、「みつ池緑地」として特別保護地域に指定され、入場が制限されています。山田邸の庭園のデッキからその南側を見下ろしましたが、今度は、西側から見上げました。野川の神明橋やや上流には、カワセミが現れていたそうです。

昼食は、トイレ完備で、先月も立ち寄った「きたみふれあい広場」でゆっくりとりました。

食後、野川沿いの意平坦な道を南に向かい、次大夫堀公園と民家園に入りました。公園は、徳川家康が代官小泉次大夫に命じて15年の歳月を掛けて掘削した六郷用水の別名で、戦後役割を終えて消えていたものを約650m復元し江戸後期の田園を再現したとのこと。民家園の方は、区内に残っていた江戸後期の時代の農家の住宅、土蔵、火の見櫓など、農村風景を再現しています。それは、単に展示や解説はなく、あたかも、さっきまで人がいたように、割りかけの薪や斧が、土塊のついた鍬が放りだされているような光景があちこちにあります。すべてが進行中なのです。しばらくその場にいと、自分が自然に草刈り鎌を持って立ち上がりそうな錯覚をもちます。もう少しいたかったけど、園前のバス停から、成城に戻りました。

(吉田明弘)

お詫び 当日お渡しした「みどころ」解説の「成城の地名」の下記の部分が印刷されていませんでした。訂正いたします。(哲大は、「道理をわきまえ、「見識の優れた人」「成城」は、「国」を「形づくる」の意。(吉田明弘)

感謝 11月17日に84円切手30枚、26日に現金700円をご寄付いただきました。感謝して報告いたします。

